



奈良県版

No. 372

2024年1月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
奈良県本部

〒631-0033

奈良市あやめ池南 1-9-27

加藤宜之気付

☎ 0742-43-0762

振替 0990-2-209460

治安維持法 国賠同盟

奈良県本部

## われわれの 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
- 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

## 新年あけましておめでとうございます。

国賠同盟の運動に日頃からご尽力いただき心から感謝申し上げます。

ロシアのウクライナ侵略から1年10ヶ月経過するも未だ戦禍が収まらず、「武力」での解決から「話し合い」による解決が求められているなか、昨年秋からパレスチナのガザ地区でのイスラエルによる市民への無差別攻撃に対し、国連では加盟国の8割にあたる賛成多数で「即時の人道的停戦」を求める決議が採択され、平和と停戦を求める世論は全世界に広がっています。

赤旗日曜版報道で発覚した自民党のパーティー券・裏金問題は今や政権中枢を直撃する大問題に発展しています。大軍拡・大增税に突き進む岸田政権を退陣に追い込み、自民党政治を終わらせましょう。

「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」ことを掲げている国賠同盟もその運動の先頭に立つ決意です。

今年も治安維持法犠牲者の調査・研究と顕彰活動、地域での支部・斑の確立と会員拡大、治安維持法犠牲者国家賠償法の制定を求める署名運動の推進など引き続きご協力、ご支援よろしくお願いたします。

2024年元旦

治安維持法 国賠同盟 奈良県本部 会長 加藤宜之

# 今年もみなさんと力を合わせて 国賠活動を推進します

会長	加藤 宣之
副会長	小林 照代
事務局長	伊藤 恵美子
事務局次長	中森 功
常任理事	
稲月 典澄	奥西 正史
越山 のぶ子	杉下 ゆき子
杉本 英雄	田中 澄江
藤本 みや子	
理事	
白川 健太郎	松下 光人
宮本 次郎	向川 征秀
山口 裕司	米本 佳山
会計監査	尾口 五三
顧問	
吉田 恒俊	溝川 悠介
田辺 実	山田 トシエ

## 女性の会 再スタートめざして

——まずは新年の計を——

積年の課題となっていた女性の会。

いよいよ今年は絶対に具体化しようと、

まずは、新年会で和気あいあいと懇親を深めることとなりました。

どんな体制でいくのか、ネーミングも、もう少し考えたい。

再発足式の企画はどうしたいかなど、思いはふくらみます。

余り気負わずに、ゆっくりと着実にすすめていきましょう。

ぜひご参加下さい。

### 新年会（男性もぜひ）

●1月17日（水） 11時30分より

●あす香 奈良市三条本町11-12

ダイワロイネットホテル奈良1F

（JR奈良西口より徒歩2分駐車場あり）

●会費 2000円

申込み 伊藤まで 090-8552-6800 15日まで

# 戦後日本社会を切り拓いた先人たちの苦闘蘇る！

—『占領下の左翼弾圧と抵抗運動—奈良県・甲谷松太の獄中記—』に学ぶ—

(その一)

2023年11月15日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

奈良県本部

顧問 田辺実

はじめに

2023年8月、奈良県近代史研

究者・竹末勤氏らによって、『占領下

の左翼弾圧と抵抗運動—奈良県・甲

谷松太の獄中記—』（以下『甲谷松太

の獄中記』）が刊行されました。同書

によって、占領下、奈良県で繰り広げ

られた左翼弾圧と抵抗運動の一端が

「甲谷松太の獄中記」を通じてリア

ルに再現されています。

また、竹末氏による「占領下の左翼

弾圧と抵抗運動をめぐる世界史」、「世

界史のなかの戦後日本史の新展開」な

どの論稿は、奈良県で繰り広げられた

左翼弾圧の背景を端的・的確に説明し

ています。

この冊子によって、戦後「奈良少年

刑務所」として運営された中でも、日

本の独立と平和のために活動した

人々が弾圧され、少なくない人々が同

刑務所に収監された歴史的事実が明

らかにされました。

「甲谷松太の獄中記」は、甲谷氏が

家族に支えられ、黙秘を貫いて確固と

して闘い抜いた様子が克明に記録さ

れています。甲谷氏と同氏の家族が、

よくぞ、このような記録を残されたも

のと感嘆します。併せて甲谷松太氏の

二女郷美氏が竹末氏・岡田雅一氏に提

供し公刊を認められたことに対して

感謝の念で一杯です。

私は、戦前の闘いを引き継いで、戦

後も平和と民主主義、国民生活擁護で

闘って日本社会の進歩の事業を推進

してきた先人の苦闘の内容に学び、今

日の闘いに生かすため、この『甲谷松

太の獄中記』が広く普及され多くの活

動家によって読まれることを期待し

ます。

## I 克明な記録「甲谷松太の獄中記」

竹末氏らによる『甲谷松太の獄中記』

は、1951年2月12日午前6時半に奈良地検から5名が、「新聞平和のこゝろ」に対する「ガサ」で自宅甲谷宅に踏み込まれ、奈良地裁の逮捕状が示され、逮捕・連行され起訴されたが、黙秘をつらぬき、免訴をかちとって釈放される同年4月5日までの記録です。

この「甲谷松太の獄中記」には、「1951年2月の日本共産党織田村細胞弾圧事件およびその抵抗運動に関する史料集的介绍としたい。甲谷松太の獄中記および葉書、家族・支援者の書信」（竹末）が収録されています。逮捕されたその日（2月12日）の「獄中記」には「当分骨休めと言った香氣さからか割合よくネムれた」と記し、

8日後の同月20日には勾留理由開示裁判で、「今度の事件は『平和と全面講和』に対する弾圧であり、そのため

に闘う共産党弾圧の陰謀」と主張し、「即時釈放を要求す」と記しています。

このように、「獄中記」は、腹の座った闘士の面目躍如たる記録です。

一方、妻節子さんに対するハガキでは、「節よ。どうして生きているか？

おもわれるのは唯それのみ。ボクは至極元氣。一切心配無用。差人等心配するなよ。必要なものは斗って取る。

コゝにもケンカはあり斗争もある。節よ。唯生きよ。生き抜け。そのために

恥じるな。恐れるな」と励まし、「子供達え。元氣であれよ。シユンとなつ

たらあかん。みんな母を守れ。」檄を飛ばしています。平和と独立のために闘う戦士として確固とした立場に

たって、妻と子供たちを心底信頼し家族愛に満ちた檄を飛ばすさまが鮮やかに再現されます。

地域住民（織田村＝現桜井市）に、「国の独立をねがった者が、—その国の法律で処罰される。これが今日の日本の状態です。皆さん、この状態が永久化する。これが単独コゝワです。どうか皆さん、講和は日本が独立できる講和を選んでください。そのために全面講和を即時要求してください。」（1951年3月15日甲谷節子宛甲谷松太葉書）と、一緒に逮捕・収監されている栄島（良蔵）と甲谷（松太）の連名で訴えています。

このように、甲谷氏の獄中記と家族と地域の人々に送った書簡等は、戦後社会を切り拓いた先人たちの苦闘がよみがえり、息をのむ場面が少なくありません。

次号につづく

迎春  
二〇二四年元旦



日本共産党 奈良県委員会

奈良市四条大路二二二一六  
電話〇七四二一三五五八二一

日本共産党 奈良市議会議員団

奈良市二条大路一一一一一  
奈良市議会内  
電話〇七四二一三四一四七八七

日本共産党大和郡山市議会議員団

大和郡山市北郡山町二四八一四  
大和郡山市議会内  
電話〇七四三一五三一一一五一

日本共産党生駒市議会議員団

生駒市東新町八一三八  
生駒市議会内  
電話〇七四三一七四一一一一

奈良合同法律事務所

奈良市登大路町五番地  
修徳ビル二〇二号  
電話〇七四二一六一一二四五七  
弁護士 吉田恒俊  
弁護士 佐藤真理

奈良県労働組合連合会

0120-378-060  
相談 すぐ たら 困つた  
奈 労 連  
奈良市登大路町五一五  
電話〇七四二一六一七二三五  
FAX〇七四二一七一一三三四

日本国民救援会奈良県本部

奈良市登大路町五一五 教育会館  
電話〇七四二一六一五三三八

奈良県民主医療機関連合会

橿原市八木町一八一一五  
ヤマト一八木店 4F  
電話〇七四四二一一三一〇一

医療法人 岡谷会

奈良市西木辻町二〇〇番地  
電話〇七四二一三三二五〇一

社会医療法人 平和会

奈良市西大寺赤田町一七一一  
電話〇七四二一四五一四六〇一

社会福祉法人 秋篠茜会

理事長 山村弘成  
奈良市西大寺赤田町一七一一  
電話〇七四二一五二一四三二五

奈良県医療介護福祉労働組合連合会

奈良市西木辻八軒町二〇〇

電話〇七四二一二七九八五〇

社会医療法人 健生会

大和高田市日之出町十二番八号

電話〇七四五一五三一五四七一

奈良県商工団体連合会

奈良市大森西町十三一十六

民商ビル四F

電話〇七四二一三〇一三九〇三

奈良民主商工会

奈良市大森西町十三一十六

民商ビル

電話〇七四二一三三二七二六六

大和郡山・斑鳩民主商工会

大和郡山市田中町一九一三

電話〇七四三一五三二三四八五

天理民主商工会

天理市田井庄町六五九

電話〇七四三一六三一六〇三〇

橿原民主商工会

橿原市雲梯五一四一三

電話〇七四四一四一三〇三三

葛城民主商工会

大和高田市大中二二一十五

電話〇七四五一五三〇八八一

葛城北民主商工会

北葛城郡広陵町大字三吉三〇一三

電話〇七四五一五五八五三〇

吉野民主商工会

吉野郡大淀町越部一三〇〇

電話〇七四七二五二一八七二五

あおば薬局

大和高田市日之出町十一一〇

電話〇七四五一三三六〇〇三



季節の  
言の葉

“新たな道”

尹 東柱

川を渡つて 森へ

峠を越えて 村へ

昨日も行き 今日行く

私の道 新たな道

たんぽぽが咲き かささぎが翔び

娘が通り 風が起き

私の道はいつでも新たな道

今日も……明日も……

川を渡つて 森へ

峠を越えて 村へ

(一九三八・五・一〇)

私の名前は六四五番ではありません。

平沼東柱でもありません。

私の名前はユン・ドンジュです。

尹東柱は同志社大学在学中1943年帰郷  
直前に逮捕され、27歳の若さで獄死しました。

川柳

入歯ずれ 権威失墜 孫達に

暦では 大雪なのに 汗じわり

ダイハツの 悪代官は トヨタです

奈良の愚僧

ごまかしの 枕言葉は「説明する」

人の波 かき分けかき分け初詣

裏金を 「文化」と居直る金権思考

郡山支部 杉本英雄



## 編集後記

「これ以上戦争で子どもたちを殺してはなりません」「平和の外交で戦争をやめさせましょう」

年の瀬、最後の水曜日、声をふりしぼってビラを配りました。暖かそうなコートを着た親子連れが、楽しそうに、素知らぬふりで行き過ぎます。

新しい年、ウクライナでもガザでも世界中の子どもたちに、平和であったかい希望に満ちた春が訪れることを願わずにはられません。

さて、年始めから、能登での激震、次の日には、羽田の日航機の炎上と大きなニュースが入ってきました。心からのご冥福とお見舞いを申し上げます。

だんらんの場に突然飛び込んできた「今すぐにげて下さい」の緊迫したアナウンス。寒く暗く何も無い中で不安な夜をすごす被災者の方々のことを思えば胸もふさがります。

私は、阪神淡路大震災の時、民医連の第一陣の救護班として派遣された経験があります。余震が続き、まだ消火しきれない火がくすぶっていました。病院や診療所はさながら野戦病院、しかしまっくら闇の中で、民医連の院所は、地域の中で灯台のように輝いていたことを昨日のこのように覚えています。貴重な体験でした。このような災害が起こるたびに「もっともっと防災や被災支援などに予算をかけてほしい、軍事費などは大幅に削って」と思います。

さあ1年のスタートです。

「明けない夜はない、

平和を守ろう、自由を守ろう、暮らしを守ろう。

みんなで力を合わせてがんばろう。

E・I

### 会員現勢・署名数12月31日現在

① 会員現勢 380名 [前月比増加3、退会4]

② 国賠署名

団体署名 23 [前月比増15]

個人署名 610 [前月比増95]